



☒と☒☒に関する覚え書き

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-05-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 車, 美愛 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00004529

밑과아래に関する覚え書き

車 美愛

韓国語に「位置名詞」と呼ばれる一群の名詞があり、韓国語学習の初級の段階で存在表現を学習する際にまとめて扱うことが多い。ものともとの位置関係を表すために使われる名詞で、主なものを挙げると次の通りである。

- (1) 식당은 역 앞에 많이 있습니다. (食堂は駅前にたくさんあります。)
은행 뒤에 주차장이 있습니다. (銀行の裏に駐車場があります。)
박물관은 경복궁 바로 옆에 있어요. (博物館は景福宮のすぐ横にあります。)
창 밖에 여자가 서 있군요. (窓の外に女性が立っていますねえ。)
학교 가까이에 삽니다. (学校の近くに住んでいます。)
우리 사이에는 아무 문제도 없어요. (私達の間には何の問題もありません。)
핸드폰은 가방 안/속에 있어요. (携帯電話はカバンの中にあります。)
테이블 위에 꽃병이 있어요. (テーブルの上に花瓶があります。)
나무 밑/아래에 앉았습니다. (木の下に座りました。)

こうした位置名詞の学習で多少問題になるのが、「안」と「속」、「밑」と「아래」の区別である。上に示したようにどちらを使ってもかまわない場合があるけれども、いつでも置き換え可能というわけではないからである。一方しか使えない場合、両方使えるけれども意味が異なる場合など使い分ける必要がある。韓国語話者にはその使い分けがなんとなくできるのであるが、韓国語を習う学生に違いを説明するとなるとなかなか厄介な問題である。辞書の定義や説明を見てもわかりにくい。「안」と「속」の区別に関しては、すでに車(1997)で扱った。「안」が「ある範囲の中」を表わし対義語は「밖」であるのに対して、「속」は「閉じられた空間の内」を表わし対義語は「깎」であると説明した。本稿の目的はもう一つの問題、「밑」と「아래」の区別を明らかにすることである。

「밑」と「아래」の区別はある意味では「안」と「속」の区別よりも難しい。車(1997)

に指摘したように「안」と「속」の場合には対義語が異なるのに対して、「밑」と「아래」の場合はどちらの対義語も「위」であるからである。対義語が異なればそれを手掛りにして基本的な意味の違いにある程度迫ることができるのであるが、「밑」と「아래」の場合はそれができない。さらに、「밑」と「아래」の場合は「안」と「속」の場合に比べてそれぞれの意味の分化が多様である。

まず、「밑」と「아래」が權威ある韓国語辞典でどのように定義されているかを見てみよう。

『국어대사전 (國語大辭典)』 (民衆書林)

밑 :

- ① 무엇이 있는 자리의 아래 속이나 아래 쪽. 또 그 물체의 아랫부분. (何かがある場所の下や下の方。またその物体の下の部分。)

例: 책상 밑 (机の下) / 땅 밑 (土の下, 地中)

- ② 정도·지위·나이 따위가 낮거나 적음. (程度·地位·年齢などが下あるいは少ないこと。)

例: 형보다 세 살 밑이다. (兄より3才下だ。)

- ③ 안쪽 (内側)

例: 밑에 내의를 입다 (下に肌着を着る)

- ④ 체언 다음에 ‘에’와 함께 쓰이어, 지배·보호·영향 등을 받는 처지임을 나타냄. (体言の後で‘에’と一緒に使われ、支配・保護・影響などを受ける立場・状況にあることを表す。)

例: 계모 밑에 자란 아이 (繼母の下で育った子供) / 장관 밑에서 일하다 (長官の下で働く)

- ⑤ 일의 근본 (ことの根本)

아래 :

- ① 기준으로 삼는 점보다 상대적으로 낮은 방향, 또는 위치. (基準にする点より相対的に低い方向、あるいは位置。)

例: 다리 아래로 떨어지다 (橋の下へ落ちる) / 아래에서 올라다 보다 (下から

見上げる) /아래채 (離れ屋)

② 사람 몸의 허리보다 낮은 부분. 하반신. (人体の腰より低い部分。下半身。)

例: 아래에 바지를 입다 (下にズボンをはく)

③ 물건의 머리와 반대되는 쪽 (ものの頭と反対になる方)

④ 조직·계통·지위·신분 따위의 낮은 쪽 (組織・系統・地位・身分などの低い方)

例: 아랫사람 (目下の人) / 위로서는 사장으로 부터 아래로는 말단 직원에 이르기까지 (上は社長から下は末端職員に至るまで)

⑤ 수준·정도·질 등이 못한 쪽 (水準・程度・質などが劣る方)

例: 이진 질이 훨씬 아래구나. (これは質がはるかに落ちるなあ。) / 아랫길 (下の方の道)

⑥ 수적으로 볼 때 적은 쪽 (数的に見て少ない方)

例: 그는 나보다 두 살 아래다. (彼は私より2才下だ。)

⑦ 강·내의 물이 흘러가는 쪽. 하류. (川・小川の水が流れていく方向。下流。)

例: 물 아래에 살다 (川下に住む)

『우리말 큰 사전 (国語大辞典)』 (語文閣)

밑:

① 무엇이 있는 자리의 아래 쪽이나 속 (何かがある場所の下の方や中)

例: 책상 밑의 책을 줍다 (机の下の本を拾う) / 한 지붕 밑에 살다 (一つ屋根の下に暮す)

② 일의 기초 또는 바탕 (ことの基礎あるいは根本)

例: 집을 짓기 전에 밑을 단단히 다지다 (家を建てる前に基礎をしっかりと固める) / 밑이 허술하다. (基礎がおろそかだ。)

③ 정도·지위·나이 따위가 낮거나 적음 (程度・地位・年齢などが下あるいは少ないこと)

例: 세 살 밑이다. (三才下だ。)

④ 임자말 다음에 '에'와 함께 쓰이어, 지배·보호·영향 등을 받는 처지임을 나타냄.

(体言の後に‘에’と一緒に使われ、支配・保護・影響などを受ける立場・状況にあることを表す。)

例: 계모 밑에서 자란 아이 (繼母の下で育った子供) / 모든 악조건 밑에서도 연구를 계속하다 (あらゆる悪条件の下でも研究を継続する)

아래:

- ① 기준으로 삼는 사물이나 부분보다 낮은 쪽 (基準にする事物や部分より低い方)

例: 무릎 아래 (膝の下)

- ② 어떤 사물의 낮은 쪽 (ある事物の低い方)

例: 책상 아래 (机の下) / 언덕 아래 (丘の下)

- ③ 강 따위의 물이 흘러가는 쪽 (川などの水が流れていく方)

例: 한강 아래에 사는 사람들 (漢江の下流に暮す人々)

- ④ 몸의 허리보다 낮은 부분 (身体の腰より低い部分)

- ⑤ 조직·기관 등에서 낮은 자리 (組織・機関などで低い地位)

例: 위로는 장관으로부터 아래로는 서기에 이르기까지 (上は長官から下は書記に至るまで)

- ⑥ 수준·정도·질 등이 못한 쪽 (水準・程度・質などが劣る方)

例: 성적이 아래였다. (成績が下だった。)

- ⑦ 적은 쪽 (少ない方)

例: 나보다 두 살 아래인 청년 (私より2歳下の青年)

- ⑧ 어떤 말 다음에 쓰이어 어떠한 조건이나 환경이 됨을 나타내는 말 (ある言葉の後に使われ、ある条件や環境になることを表す言葉)

例: 어린이는 어떠한 명목 아래에서도 학대 받아서는 안된다. (子供はどのような名目の下でも虐待されてはならない。)

『새 우리말 큰 사전 (新国語大辞典)』 (三省出版社)

밑:

- ① 물체의 아래나 또는 아래쪽 (物体の下あるいは下の方)

例: 책상 밑 (机の下) / 육교 밑 (陸橋の下)

② 물체의 아랫부분이나 아래쪽 (物体の下の部分や下の方)

例: 땅 밑 (土の下) / 바다 밑 (海の下、海底)

③ (어떤 조직체 등에서의) 아래나 하부 (ある組織体などでの) 下あるいは下部

例: 철수 밑에 여동생이 둘이나 있어요. (チョルスの下に妹が二人もいます。)

/ 밑에서 올라온 보고 (下から上がってきた報告)

④ (일정한 명사 다음에 '에'와 함께 쓰이어) 그 명사가 어떤 '조건' 이나 '환경' 따위로 됨을 나타냄. (一定の名詞の後で에と一緒に使われ) その名詞がある「条件」や「環境」などになることを表す。)

例: 그런 상황 밑에서는 불가피한 일이다. (そのような状況の下では避けられないことである。) / 어린이는 부모 밑에서 엄하게 자라야 한다. (子供は父母の下で厳しく育てねばならない。)

아래:

① 어떤 기준보다 낮은 쪽이나 또는 머리와 반대되는 쪽(부분) (ある基準より低い方や、あるいは頭と反対になる方向(部分))

例: 머리 아래 (頭の下) / 다리 아래 (橋の下)

② (어떤 조직이나 기관 같은 데서) 하급의 자리, 또는 그 부분 (ある組織や機関などで) 下級の地位、あるいはその部分)

例: 아래에서 위로 올라가는 상향식 추천 방법 (下から上へ上がっていく上向式推薦方法)

③ (몸의) 허리보다 낮은 부분 (身体の) 腰より低い部分)

例: 바지는 아래에 입는 옷이다. (ズボンは下に着る服である。)

④ (수량적으로 볼 때) 적은 편 (数量的にみるとき) 少ない方)

例: 그는 나보다 세 살이나 아래다. (彼は私より3才も下だ。)

⑤ (사물의 정도·수준·질 따위가 어떤 것에 비하여) 낮은 편 (事物の程度・水準・質などがあるものに比べて) 低い方)

例: 영수의 성적은 철수보다 아래인 성싶다. (ヨンスの成績はチョルスより下の)

ようである。)

- ⑥ ('아래'로 쓰이어) 영향이 미치는 범위 (('아래' の形で使われ) 影響が及ぶ範囲)

例: 어떤 조건 아래 협상이 진행되고 있다. (ある条件のもとで協商が進行している。)

『표준국어대사전 (標準國語大辭典)』 (斗山東亞)

밑:

- ① 물체의 아래나 아래쪽 (物体の下あるいは下の方)

例: 지붕 밑 (屋根の下) / 산 밑 마을 (山の下の村) / 청계천 다리 밑 (チョンゲチョンの橋の下) / 잃어버렸던 책을 책상 밑에서 찾았다. (なくした本を机の下で見つけた。)

- ② 나이·정도·지위·직위 따위가 적거나 낮음. (年齢・程度・地位・職位などが少ないあるいは低いこと。)

例: 과장은 부장보다 밑이다. (課長は部長より下だ。)/ 동생은 나보다 두 살 밑이다. (弟は私より2才下だ。)

- ③ ('밑에서' 꼴로 쓰여) 그 명사의 지배·보호·영향 따위를 받는 처지임을 나타내는 말 (('밑에서' の形で使われ) その名詞の支配・保護・影響などを受ける立場であることを表す言葉)

例: 나는 어려서부터 할머니 밑에서 자랐다. (私は幼い頃から祖母の下で育った。)/ 나는 훌륭한 선생님 밑에서 배웠다. (私は立派な先生の下で習った。)

- ④ 일의 기초 또는 바탕 (こと的基础あるいは根本)

例: 밑이 튼튼해야 한다. (基礎が丈夫でなければならない。)

아래:

- ① 기준보다 낮은 위치 (基準より低い位置)

例: 하늘 아래 (空の下) / 언덕 아래 (丘の下) / 불빛 아래 (灯りの下) / 햇빛 아래 (陽光の下)

② 신분·연령·지위·정도 따위가 어떠한 것보다 낮은 쪽 (身分・年齢・地位・程度などがあるものより低い方)

例: 그는 나보다 두 살 아래다. (彼は私より2才下だ。) / 그는 삼십대 아래로 보인다. (彼は三十代より下に見える。)

③ 조건·영향 따위가 미치는 범위 (条件・影響などが及ぶ範囲)

例: 나무 그늘 아래에서 책을 보다 (木陰の下で本を読む) / 그는 아직 부모의 보호 아래에 있다. (彼はまだ両親の保護のもとにいる。) / 그 일은 치밀한 계획 아래에 진행되었다. (そのことは緻密な計画の下で進められた。)

④ 글 따위에서, 뒤에 오는 내용 (文章などで、後に来る内容)

例: 합격자 명단은 아래와 같다. (合格者は次の通りである。)

『국어사전 (國語辭典)』 (省安堂)

밑:

- ① 물체의 아래 (物体の下)
- ② (땅이나 바다의) 속 (陸とか海の中)
- ③ 일의 기초나 바탕 (物事の基礎や根本)
- ④ 무엇의 영향이나 보호 아래 (何かの影響や保護の下)

例: 부모의 날개 밑에 있을 때가 행복할 때다. (父母の翼の下にいるときが幸せなときである。)

아래:

- ① 더 낮은 곳 (さらに低い所)
例: 산 아래 (山のおもと)
- ② 덮여 있는 그 밑쪽 (覆い被さっているその下の方)
例: 지붕 아래 더그매 (屋根の下屋根裏) / 나무 아래서 쉰다. (木の下で休む。)
- ③ 순위, 나이, 정도, 능력, 품질 따위가 못하거나 작은쪽 (順位、年齢、程度、能力、品質などが劣るか小さい方)

例: 그 아래 직급으로 떨어졌다. (その下の職級へ下がった。) / 순위가 아래로

쳐졌다. (順位が下へ下がった。)

④ 무엇의 영향이나 지배를 받는 처지 (何かの影響や保護を受ける立場)

例: 우리는 지금 민족 통일의 깃발 아래에 뭉쳐야 한다. (我々はいま民族統一の旗の下に団結しなければならない。) / 어린이 보호라는 명목 아래서 돈벌이에 급급하고 있는 어른들이 있다. (子供の保護という名目の下で金儲けに汲々としている大人達がいる。)

⑤ '다음' 또는 '다음에 적은 것'을 뜻하는 말 ('次'あるいは'次に書いたこと'を意味する言葉)

例: 아래 사항을 참고하십시오. (次の事項を参考しなさい。)

『朝鮮語辞典』 (小学館)

밑 :

① (物の) 下、内部、底

例: 나무 밑 (木の下) / 바다 밑 (海の底) / 책상 밑에 연필이 떨어져 있다. (机の下に鉛筆が落ちている。) / 신발 밑에 검이 붙었다. (履物の底にガムがくっついた。) / 베개 밑에 총을 숨겨 놓는다. (枕の下に銃を隠しておく。) / 저 육교 밑에서 차를 세워 주세요. (あの陸橋の下で車を止めて下さい。) / 설탕이 녹지 않고 밑에 가라앉았다. (砂糖が溶けなくて底に沈んでいる。) / 땅 밑에 묻어 둔 보물 (土の下に埋めておいた宝物) / 밑에 옷을 겹쳐 입는다. (下に重ね着する)

② (年齢・地位などの) 下

例: 저는 형보다 네 살 밑입니다. (私は兄より4歳下です。) / 내 밑에 동생이 둘이나 있어요. (私の下に弟が2人もいます。) / 과장은 부장의 밑이다. (課長は部長の下だ。)

③ (ある条件・環境の) 下、もと

例: 남 밑에서 일한다. (他人の下で働く。) / 그 일은 면밀한 계획 밑에 추진되었다. (その仕事は綿密な計画のもとに推進された。) / 그런 선생 밑에서 이

렇게 훌륭한 제자가 나오다니. (あんな先生のもとからこのような立派な弟子が出るとは。)

④ (物事の) 根本, 基礎

例: 밑이 든든하다. (基礎がしっかりしている。)

아래 :

① 下, 下方

例: 언덕 아래 (丘のふもと) / 산 아래 (山のふもと) / 허리 아래 (下半身) / 아래를 보다 (下の方を見る) / 아래로 내려가 보아라. (下の方へ降りてみなさい。) / 위를 아래로 하다 (上下を逆にする、逆さにする) / 눈 아래 태평양이 펼쳐져 있다. (眼下に太平洋が広がっている。)

② (年齢・地位・身分) 下

例: 아랫 사람 (目下の人) / 내 아래에서 일하다 (私の下で働く) / 남의 아래에 들어갔다. (人の手下となる。)

③ (数量・品質) 下

例: 질이 이것보다 아래다. (質がこれより劣る。) / 나보다 세 살이나 아래다. (私より3歳も下だ。)

④ 後に続くこと, 次, 以下

例: 설명은 아래와 같다. (説明は次のとおりである。)

⑤ (支配・影響・条件) 下

例: 참가한다는 조건 아래 (参加するという条件の下に) / 봉건 제도 아래에서 영주들이 많은 농토를 소유하고 있었다. (封建制度の下で領主達は多くの農地を所有していた。)

⑥ (衣服などの) 内側, 下, 中

辞書によって意味区分の詳しさ、定義や説明の仕方に違いがあるけれども、基本的には同じような説明になっている。どの辞書でも「밑」和「아래」の違いを意識した説明がなされていないため、説明を比べ合わせてもその違いがいま一つはっきりしない。「밑」和「아

래」を対比したものとしては、大阪外国語大学朝鮮語研究室編『朝鮮語大辞典』の「아래」の項に次のような記述が見られる程度である。

- 1) 「아래」は相対的に、より下・下部、「밑」は先端・頂に対して最下端・底。また「아래」は広がりがあるが、「밑」は「点」的である。
- 2) 本来次のように意味が異なる: 강 아래 마을 「川下の村」、강 밑 마을 「川の水底の村」。
- 3) しかし、日常混用される場合が多い。다리 아래(밑) 그림자 / 나무 아래(밑)에서 낮잠을 잔다.
- 4) 次の例では混用は不可能。밑 (恥部)、윗물과 아랫물 (上流と下流)、~의 주춧아래에 ~の主催の下に

簡単な記述であるけれどもなかなか示唆に富んでいる。本稿を書くに当たって非常に参考になった。

同辞典は「밑」と「아래」の区別に関してこの他にも有用な情報を載せている。基本語のほとんどに語源的情報を与えているのであるが、「밑」と「아래」に関して極めて重要な語源情報を記している。それによれば、「아래」はもともと「下・下部・下方」の意味であり、日本語の「おりる」や「おろす」の語根と同語源であるのに対して、「밑」の本来の意味は「根本、基礎」であって日本語の「もと」と同語源であると言う。したがって、「위」の対義語は「아래」であり、「上下」とセットにして表現するときは「위아래」あるいは「아래위」と言い、「위밑」とか「밑위」とかは言わない。「밑」が「下」の意味で使われるのは派生的な意味発達の結果であるということになる。「아래」と「밑」の違いを考えるとときにはこのことを念頭に置く必要がある。上に挙げた韓国語辞典の記述で「아래」に対する「根本、基礎」の意味をこの語の第一義としている例は一つもない。すべて「下・下部・下方」の意味を第一義としている。初級韓国語の教科書でも位置名詞の一つとして「下」の意味を表す語を導入する場合、「아래」よりも圧倒的に「밑」の方が多い。「아래」と「밑」のような多義語の語義をどのような順序で配列するかは辞書によって異なる。現代語の語法で最も基本的な意味用法を第一義とする場合が多いようであるが、それが語源的な原義と一致しない場合がよくある。「밑」の場合がそのような例である。このことが「아래」と「밑」の区別をわかりにくくしているのではないかと思われる。

上に挙げた辞書の説明を参考に、次のような場合に分けて「아래」と「밑」の区別を考察することにしよう。

- ① 物の部分を表す場合
- ② 空間的位置関係を表す場合
- ③ 序列を表す場合
- ④ 影響・支配・保護などの関係を表す場合
- ⑤ 「根本・基礎」の意味を表す場合

まず、「아래」と「밑」の区別が最も明白な⑤の場合から取り上げることにしよう。この意味で「아래」が使われることはない。

- (2) 밑을/*아래를 단단히 다지다 (家を建てる前に基礎をしっかりと固める)
밑이/*아래가 허술하다 (基礎がおろそかだ)
밑이/*아래가 튼튼하다 (基礎が丈夫だ)

これは、次のように「밑」を含む複合語の場合でも同様である。

- (3) 밑-거름/*아래-거름 (元肥)
밑-그림/*아래-그림 (下絵、原画)
밑-글/*아래-글 (元となる知識、すでに学んだ学問)
밑-꼴/*아래-꼴 (原型)
밑-돌/*아래-돌 (礎石)
밑-바탕/*아래-바탕 (本質、素質)
밑-천/*아래-천 (資本、元手)

「根本、基礎」の意味の「밑」が「下」を指すように意味転化を生じる理由は容易に理解できよう。建築物にしろ木や柱にしろ直立しているものは、「根本、基礎」となる部分が下にあって上の部分を支えていることから転じたものと考えられる。この意味転化によって①

の「物の部分を指す場合」としての「밑」の用法が生まれ、「아래」との意味の対立が生じたと考えられる。

「아래」と「밑」が物の部分を指すのに用いられる場合の意味は、テーブルの上に置いた茶筒を例にとって考えてみるとわかりやすい。茶筒を中央で上下半分ずつに分けた場合、上半分が「위」、下半分が「아래」である。では、「밑」はどの部分を指すかと言えば、茶筒がテーブルに接している部分、つまり底の部分を指す。あるいは、茶筒の胴体の底面にごく近い部分を指すこともできる。これと反対の意味、つまり茶筒の上の面、あるいはそれにごく近い部分を指す言葉は、やはり「위」である。これを踏まえて「아래」と「밑」の分布を見てみよう。

あるものが上下に二つに分けられ、その下の部分を言う場合には、普通、「아래」を用い「밑」は用いない。

- (4) *밑/아래옷 (下半身につける衣服) ~ 옷 (上半身につける衣服)
- *밑/아래쪽 (上下一組の物の下の部分) ~ 위쪽 (上の部分)
- *밑/아래턱 (下顎) ~ 위턱 (上顎)
- *밑/아랫니 (下の歯) ~ 윗니 (上の歯)
- *밑/아랫입술 (下唇) ~ 윗입술 (上唇)
- *밑/아래알 ((そろばんの) 一玉) ~ 윗알 (五玉)
- *밑/아래윗별 (衣服の上下)
- *밑/아랫도리 (下半身) ~ 윗도리 (上半身)
- *밑/아랫배 (下腹、丹田) ~ 윗배 (臍の上の部分)
- *밑/아랫서랍 (下の引き出し) ~ 윗서랍 (上の引き出し)
- *밑/아랫몸 (下半身) ~ 윗몸 (上半身)

この場合の上下は垂直方向の区分である必要はない。坂や川の流れのような傾斜のある上下の場合でもかまわない。

- (5) *밑/아랫물 (下流) ~ 윗물 (上流)
- *밑/아래마을 (下の方にある村) ~ 윗마을 (上の方にある村)

*밑/아랫목 (온돌의焚き口に近い部分) ~ 웃목 (온돌의焚き口から遠い部分)

*밑/아랫방 (離れの部屋) ~ 웃방 (奥の部屋)

*밑/아래채 (離れ家) ~ 윗채 (上の方にある棟)

*밑/아랫집 (下の方にある家) ~ 윗집 (上の方にある家)

*밑/아랫반 (下のクラス) ~ 윗반 (上のクラス)

온돌の焚き口に近い部分を「아랫목」と言うのは、部屋には傾斜はないけれども煙りは低いところから高いところへと昇るので、心理的に焚き口に近いところが低いと意識されたためではないかと考えられる。

「밑」は物の最下端部を指す。例えば、容器あるいは容器状の物の底の部分は「밑」である。その場合容器の内側の底の意味にも外側の底の意味にも使うことができる。

(6) 밑이/*아래가 빠지다 (底が抜ける)

컵 밑/*아래에 동전을 넣는다. (コップの底にコインを入れる。)

설탕이 녹지 않고 밑/*아래에 가라앉았다. (砂糖が溶けなくて底に沈んでいる。)

구두 밑/*아래에 껌이 붙었다. (靴の底のガムがくっついた。)

ただし、靴の内側の底を指すときは、単に「밑」ではなく「밑창」と言う。

容器だけではなく基部、最下端部を特定できるようなものであれば何でもいい。その部分を表すのに「밑」を使うことができる。

(7) 강 밑 (川底)

바다 밑 (海の底)

호수 밑 (湖の底)

산 밑 (山の麓)

「강 밑」に対して「강 아래」という表現も可能である。しかし、これは全く意味が異なり「川の下流」の意味である。ただし、「강 위」は普通「川の上流」ではなく「川の上、川

面」の意味になる。「上流」を指すには先に挙げた「윗물」かあるいは漢字語の「상류」が使われる。海や湖のように一定方向の流れのない水の場合には「바다 아래」や「호수 아래」のような表現は不自然である。人によってはこれを「海の中、海中」や「湖の中」の意味で使うこともないとは言えないけれども、「바다 밑」や「호수 밑」をその意味で使う方がはるかに自然である。「바다 밑」や「호수 밑」がこの意味になるのは、海や湖の通常目に見える部分、海面や湖面を基準にしてその下を指すことによると考えられる。つまり、後述する空間的位置関係の場合である。「山の麓」の意味では「산 아래」も可能であるが、「산 밑」とは多少ニュアンスが異なる。「산 밑」は山の基部、つまり山と平地との境目の部分を指すのに対して、「산 아래」は山の下方に広がる土地全体をさす。山と平地との境目の部分がどこか明確に指し示すことは難しいだろうが、「산 밑」はそのように感じられる部分を指しており、「산 아래」の方が指す範囲がはるかに広い。その極端な例として次のような表現がある。

(8) 한라산 *밑/아래에 모르는 사람이 없었다. (全国で知らない人はいなかった。)

その他、ものの部分を指す表現としては「お尻」など人の下半身の特定の部分を指すのに「밑」を使うことがあるが、この場合には「아래」は使えない。人の体について「아래」と言えば下半身全体を指すことになる。

(9) 밑/*아래가 가볍다. (尻が軽い。)

밑/*아래가 질기다. (尻が長い、尻が重い。)

바지는 *밑/아래에 입는 옷이다. (ズボンは下に着る服である。)

타월로 밑/아래를 가린 채 말했다. (タオルで下を隠したまま言った。)

最後の例で「밑」と「아래」とでは隠す部分が異なる。

次に、「밑」や「아래」が空間的な位置関係を表す場合を考えてみよう。この場合、次のような初級韓国語教科書の例文に見られるように「밑」と「아래」のどちらも使える場合が多い。

(10) 의자 밑/아래에 고양이가 있습니다. (椅子の下に猫がいます。)

나무 밑/아래에서 쉬시다. (木の下で休みましょう。)

다리 밑으로/아래로 떨어졌다. (橋の下に落ちた。)

육교 밑/아래에서 차를 세워 주세요. (陸橋の下で車を止めて下さい。)

서울 바로 밑/아래에 수원이 있어요. (ソウルのすぐ下に水原があります。)

最後の例は地図で北を上を書くことから南を下と言ったものである。

しかし、空間的位置関係を表す場合にも「밑」と「아래」には様々な用法上の違いが見られる。その違いはやはり「밑」と「아래」の原義に由来すると考えられる。「밑」が原義の「根本、基礎」の意味から「基部、底部」の意味に転じたことを上に指摘したが、これが空間的位置関係を表す場合には「直下、真下」「すぐ下」の意味が加わる。これに対して「아래」はある規準になる点から下方の位置を指し必ずしも垂直方向に真下である必要はなく斜め方向でも構わない。また、あるものに接してすぐ下ではなくむしろ隔たりがあることを表す。これを端的に表すのが次のような表現である。

(11) 눈 밑에 큰 점이 있다. (目の下に大きなほくろがある。)

눈 아래 태평양이 펼쳐져 있다. (眼下に太平洋が広がっている。)

발 밑에 엎드리다 (足元に伏せる)

발 아래 큰 빙하가 흐르고 있다. (足元に大氷河が流れている。)

「밑」は「直下」の意味であるから「눈 밑」は目のすぐ下の顔の部分を指し、「눈 아래」は水平の目線の方向を基準にしてその下に広がる空間全体、「眼下」を指す。同様に「발 밑」はすぐ足下の意味であり、「발 아래」は足の位置より下の方にある空間全体を指す。

同様の理由で、次のような例では普通「밑」を使うことはできない。

(12) 그 길을 따라 *밑/아래로 내려가다 (その道に沿って下へ下りて行く)

*밑/아랫바람 (下から上の方へ吹く風)

ただし、最初の例で、バベルの塔のようなものがあってそこらせん状の道がついており、それに沿って真下と感じられる方向に下る場合には「밑」も不自然ではなくなる。

「真下、直下」という概念は点として認識されるもの間の位置関係であるから、上に位置

するものが点として捉えられないものである場合には「밑」は使いにくい（例文中の不等号は開いた側の表現の方が自然であることを表す）。

(13) 같은 하늘 밑>아래 (同じ空の下)

구름 *밑/아래에 펼쳐진 광경 (雲の下に広がっている光景)

촛불 *밑/아래서 쓰는 편지 (蠟燭の下で書く手紙)

희미한 불빛 *밑/아래에 혼자 앉아 있다. (微かな灯りの下に一人座っている。)

밝은 햇빛 *밑/아래 (明るい陽光の下)

「光」や「灯り」は光源だけでなくそれによって照らし出される空間的広がりを意味するため、点としては意識されにくい。次のように光源だけが示される場合には点として意識され「밑」が用いられる。

(14) 등잔 밑이>아래가 어둡다. (【諺】燈台下暗し)

태양 밑>아래에서 (太陽の下で)

ただし、次の例では「아래」より「밑」の方が自然である。

(15) 한 지붕 밑/*아래에서 살다 (同じ屋根の下に住む)

これは、屋根とその下の空間つまり家の中が同じ広がりを持つため「直下」と意識されるためではないかと思われる。

「아래」には「真下、直下」という含意はなく一般に「下」を表すから、上の(*)のような例では「밑」も「아래」も用いることができる。しかし、「真下、直下」の意味があるときにはどちらかと言えば「밑」の方が自然である。

「밑」が「底部、基部」を意味することから、そのすぐ下に接する位置を示すのに用いられる。このような場合には「아래」は使えない。

(16) 편지지는 책 밑/*아래에 있어요. (便箋は本の下にあります。)

베개 밑/*아래에 총을 숨겨 놓는다. (枕の下に銃を隠しておく。)

마누라 영당이 밑/*아래에 깔려있다. (奥さんの尻に引かれている。)

次のような例もこれに準じて解釈できるのではないかと思われる。

(17) 땅 밑>아래에 묻어 둔 보물 (土の下に埋めておいた宝物)

돌아가신 아버님이 땅 밑<아래에서 울고 계실거야. (亡くなったお父さんが地下で泣いていらっしやるだろう。)

最初の例では足元の地面のすぐ下というような意味であるから「밑」が使われ、後の例では具体的な地下の意味というよりは「あの世の世界」のような漠然とした意味であるため「아래」が好まれると考えられる。

直接接触している場合には空間的に上下でなくともかまわない。次のようにすぐ内側の意味でも用いられる。

(18) 밑에 내의를 입다 (下に肌着を着る)

「밑」や「아래」は空間的位置の上下関係から転じて年齢・数量・水準・地位・身分など種々の抽象的上下関係あるいは序列における「下」を表すのにも用いられる。この場合、序列の種類によって「밑」と「아래」の分布状況に違いが見られる。

まず、人間関係の序列の場合には「밑」と「아래」のどちらを使ってもかまわない。

(19) 형보다 세살 밑/아래이다. (兄より3才下だ。)

철수 밑/아래에 여동생이 둘이나 있어요. (チョルスの下に妹が二人もいます。)

밑/아래에서 올라온 보고 (下から上がってきた報告)

과장은 부장보다 밑/아래이다. (課長は部長より下だ。)

남 밑/아래에서 일한다. (他人の下で働く。)

どちらを使ってもかまわないがニュアンスが異なる場合がないわけではない。例えば、最後の例のような場合、「아래」より「밑」を使う方が直属の部下という感じが出る。やはり、

「밑」の原義の影響であると考えられる。また、次のように「위」と対比させる場合には圧倒的に「밑」の方が自然である。

- (20) 위로서는 사장부터 아래로/*밑으로는 말단 직원에 이르기까지 (上は社長から下は末端職員に至るまで)

人間関係以外の序列の場合にも「밑」と「아래」の両方が可能であるけれども、「아래」の方がより自然な感じがする場合が多いようである。

- (21) 질이 훨씬 밑<아래이다. (質がはるかに落ちる。)

영수의 성적은 철수보다 밑<아래인 성실다. (ヨンスの成績はチョルスより下のようである。)

그는 삼십대 밑으로<아래로 보인다. (彼は三十代より下に見える。)

순위가 밑으로<아래로 쳐졌다. (順位が下へ下がった。)

ただし、次のような例では「밑」でも「아래」でもほとんど差はない。

- (22) 100 만원 밑으로/아래로 (100万円以下で)
평균보다 밑/아래 (平均より下)

序列の特殊な場合として、書き物において「以下、次、後に述べること」の意味を表わすのに「아래」が使われる。

- (23) 합격자 명단은 아래와/*밑과 같다. (合格者は次の通りである。)

아래/*밑 사항을 참고하십시오. (次の事項を参考しなさい。)

아래/*밑에 분석되는 자료는 (次に分析される資料は)

아래/*밑의 표 2 참고 (次の表 2 参考)

この場合「밑」は使えないのが普通であるが、最後の例のような場合、表 2 が實際その頁の

下の部分に置かれている場合には「밑」も可能である。

最後に、影響・支配・保護などの関係を表わす場合については、どんな名詞の後に続くかによって「밑」と「아래」の分布が異なる。まず、次のように人を表わす名詞に続く場合には「밑」も「아래」も使えるがどちらかと言えば「밑」の方が自然な感じがする。

(24) 어린이는 부모 밑>아래에서 엄하게 자라야 한다. (子供は父母の下で厳しく育てねばならない。)

나는 어려서부터 할머니 밑>아래에서 자랐다. (私は幼い頃から祖母の下で育った。)

계모 밑>아래에서 자란 아이 (継母の下で育った子供)

그런 선생 밑/아래에서 이렇게 훌륭한 제자가 나오다니. (あんな先生のもとからこのような立派な弟子が出るとは。)

엄한 스승 밑/아래에서 제자들이 묵묵히 수련하고 있다. (厳しい師の下で弟子達が黙々と修練している。)

このような人を表わす名詞の後に用いられる「밑」や「아래」は上に述べた人間関係における序列を表わす用法の延長線上にあるものと解釈できる。

次の例のように抽象的な意味で用いられる具体的な名詞の後に「밑」や「아래」が続く場合は、空間的位置関係の延長線上で解釈できる。このような場合にはどちらかと言えば「밑」の方が自然である。

(25) 핵우산 밑/아래 (核の傘の下)

부모의 날개 밑에 있을 때가 행복할 때다. (父母の翼の下にいるときが幸せなときである。)

우리는 지금 민족 통일의 깃발 아래에 뭉쳐야 한다. (我々はいま民族統一の旗の下に団結しなければならない。)

抽象的な名詞の後に続く場合は、具体的な用法からの類推が明確ではない。中国語や英語など外国語の表現の影響もあるのではないかとと思われる。この場合には、上に挙げた辞書で

は「밑」の例として挙げているケースもあるが、「밑」は用いられないか、用いることができたとしても「아래」の方が自然である。

(26) 그 일은 면밀한 계획 밑<아래에 추진되었다. (その仕事は綿密な計画のもとに推進された。)

어린이는 어떠한 명목 *밑/아래에서도 학대 받아서는 안된다. (子供はどのような名目の下でも虐待されてはならない。)

어떤 조건 밑<아래에 협상이 진행되고 있다. (ある条件のもとで協商が進行している。)

그는 아직 부모의 보호 밑<아래에 있다. (彼はまだ両親の保護のもとにいる。)

봉건 제도 밑<아래에서 영주들이 많은 농토를 소유하고 있었다. (封建制度の下で領主達は多くの農地を所有していた。)

주어진 운명 *밑/아래에서 살다 (与えられた運命の下で生きる)

이번뿐이라는 조건 밑<아래에서 회장을 빌렸다. (今度だけという条件の下で会場を借りた。)

어려운 상황 밑<아래에서 (難しい状況の下で)

공산주의 이념 밑<아래에서 (共産主義の理念の下で)

교사의 감독 밑<아래에서 시험을 쳤다. (教師の監督の下で試験を受けた。)

36년간 일본의 지배 밑<아래에 있었다. (36年間日本の支配の下にあった。)

参 考 文 献

- 李熙昇編集『국어대사전 (国語大辞典)』(第3版) 民衆書林、1996年
ハングル学会編『우리말 큰 사전 (国語大辞典)』(第3版) 語文閣、1994年
申琦澈・申ヨン澈編著『새 우리말 큰 사전 (新国語大辞典)』(第3版) 三省出版社、
1986年
国立国語研究院編『표준국어대사전 (標準国語大辞典)』斗山東亜、1999年
大阪外国語大学朝鮮語研究室編『朝鮮語大辞典』角川書店、1986年
油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館、1997年
金貞淑編『新韓日辞典 (例解)』民衆書店、1996年
남영신編『국어사전 (国語辞典)』省安堂、1998年
東亜出版社編集部編『東亜프라임韓日辞典』東亜出版社、1994年
金道換編著『한국속담활용사전 (韓国ことわざ活用辞典)』図書出版ハンウル、1993年
時田昌瑞著『岩波ことわざ辞典』岩波書店、2000年